

News Letter

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

■ 第29号 ■

2009年3月13日

CONTENTS

- テクニカルショウヨコハマ2009出展！ 1
- 「やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議」コーディネータ
連絡会議～地域発のイノベーションに向けて～ 2
- アメリカの大学技術マネージャー協会(AUTM)に参加して ... 3
- 社会人基礎力育成に向けた取り組みの報告 3
- 新スタッフのご紹介 4
- セミナーのお知らせ
産学連携型研究開発に関する情報セキュリティ・セミナー .. 4
ライフサイエンスマネジメントセミナー 5
- 山口大学客員教授特別講演会のお知らせ 6
- 細胞機能分析装置：フローサイトメーター導入について 6

発行 産学公連携・イノベーション推進機構
連絡先 〒755-8611
宇部市常盤台2丁目16-1
電話 0836-85-9961 F A X 0836-85-9962
e-mail yuic@yamaguchi-u.ac.jp
URL http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/

テクニカルショウヨコハマ2009出展！

2月4日～6日の3日間、パシフィコ横浜(横浜市)で開催された、神奈川県下では最大の工業技術・製品総合見本市「テクニカルショウヨコハマ2009」で、機械、福祉、医療、アグリ分野計5件の技術シーズを発表するとともに展示も行いました。

本展示会への出展は、山口大学と(財)横浜企業経営支援団体が平成20年10月15日に産学公連携活動を円滑に行うために連携協定を締結したことがきっかけとなっています。

本協定は、相互の産学公連携活動を円滑に行うために、山口大学が横浜の財団のネットワークに広域連携大学として参画し、大学と財団が有する人的・物的資源を有効に活用して相互に協力し、地域産業の振興と地域社会の発展に寄与することを目的としています。

具体的な活動として、横浜市をコアにした産学官による地域連携の推進や大学シーズと横浜市内企業とのマッチングが掲げられています。

開催期間中、大学シーズ5件に対する訪問数は約150社、その中には、具体的な動きになりそうな案件もありました。

～発表した技術シーズ～

- 流体アクチュエータ
- 低温多元対向スパッタ装置
- 超音波レーダと電灯線通信を用いた見守り介護
- 超音波プローブによる間接軟骨の評価
- 農作物の生育・水分ストレスの診断

今回の出展は、これだけにとどまらず山口大学と横浜の財団が有する人的・物的資源を有効に活用し、山口県と横浜地域との地域間連携も視野に入れ、地域産業の振興と地域社会の発展に寄与できるよう活動して行きます。



ブースを訪れている来場者

「やまぐち事業化支援・連携コーディネータ会議」コーディネータ連絡会議 ～地域発のイノベーションに向けて～

山口大学は平成20年度に、文部科学省が進める「産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)」の特色ある優れた産学官連携活動の推進事業に採択されました。

これを受け、平成20年11月18日に山口県内を中心とした広く中国地域の産業支援機関、大学および高専に所属する産学公の連携活動を行うコーディネータの繋がりを強化し、山口県の地域資源やシーズを活用した事業化支援を行うことを目指し関連機関と協力して立ち上げられた「やまぐち事業化支援・連携コーディネータ会議」において、コーディネータ連絡会議の運営に積極的に取り組んでいます。

コーディネータ連絡会議には産学公の各機関から合計100名以上が参加しており、さまざまな事業を通じて地域発のイノベーションを創り出し、この地域を元気にすることを目指して活動しています。これまでは、各研究機関が持ついくつかの技術シーズの紹介、企業と研究機関の連携のもとに進める研究開発活動に対しての助成事業の説明会、山口大学で開発した特許検索システムの講習会を実施しました。平成21年度には活動をより本格化し、他の地域の研究者、企業の紹介も取り入れながら、事業化に結び付く産学公のニーズ・シーズのマッチングを進めていきます。活動の詳細は5月の総会を経て決定される予定です。

・企業の「こんな技術課題を解決したい。」をサポートします。

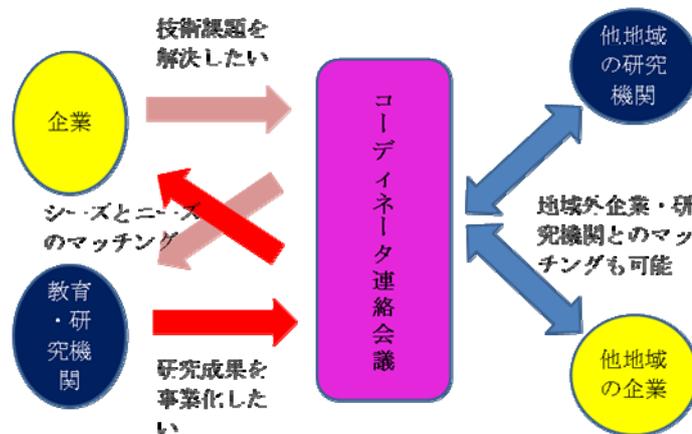
・研究機関の「こんな研究成果を事業化したい。」を実現させたい。

という思いで活動を計画しておりますので、事業への協力・参加をお願いいたします。

～コーディネーター連絡会議の概要～

事業内容

- (1) 地域発のイノベーション創出の支援に関する事
- (2) コーディネータ等の情報交換及び情報共有の推進に関する事
- (3) コーディネータ等の人材養成に関する事
- (4) 関係機関の事業化支援コーディネータ機能の充実及び産学公連携ネットワークの強化に関する事
- (5) 共同研究の推進に関する事
- (6) その他連携会議の目的を達成するために必要な事業



参加機関

産 7機関、学 7機関、公 5機関(コーディネータ67名、スタッフ38名)
他にオブザーバ4機関 (5名)

平成20年度の活動実績

シーズ発表会(宇部高専、徳山高専、産業技術センター、山口大学)

助成金説明会(コーディネータ、企業参加)

山口大学制作特許検索システム(YUPASS)説明会(コーディネータ向け)



～アメリカの大学技術マネージャー協会(AUTM)に参加して～

アメリカフロリダ州オーランドで2月12日～14日に開催されたAUTMの年次総会に参加しました。AUTMとは、大学技術マネージャー協会 (Association of University Technology Managers) のことで、この会合は年に一度アメリカで開催され、多くの大学の技術移転担当者、ベンチャー企業経営者、技術移転に関わる弁理士、弁護士などが出席する研修と情報交換の場です。参加者は、アメリカからだけでなく、日本、ヨーロッパ、さらには中国、台湾、インド、シンガポール等のアジアの国々の方も多く、技術移転活動がアメリカだけでなく、世界中に広まってきていることを実感しました。



日本でも大学シーズの技術移転担当者による情報交換会が毎年開催されていますが、AUTMでは「議論中心」のセッションが多くあり、アメリカらしさを感じました。単に配布資料を見ながら講演者の話を聞くのではなく、講演者と一緒に自分たちが抱えている問題点を議論し、解決策を見出そうとする点が印象的でした。個別セッションでは、ライセンスや特許をテーマとするものが中心でした。技術移転活動においてはまず特許出願が重要となります。大学が研究成果をもとにした技術を出願する上での注意点は、「研究ノート」記載です。AUTMでも、研究経過の記録が大切であることの説明がありました。山口大学では、かねてから研究ノートの記載を推進しています。これまで以上に研究ノートの大切さを教員、学生など研究に携わる方に伝えていきたいと思います。また、バイオや化学などの専門技術に的を絞ったセッションもありました。中には、特許の専門家であるパテントアトニー(日本での弁理士)が参加者の中心となり、特許明細書の書き方について講演者や参加者と熱く語り合う場面もありました。



さらに、3日間ともに、朝食・昼食・夕食すべて会場内で参加者間の交流の場が提供され、早朝から夜遅くまで会議と交流で充実した3日間を過ごすことができました。夜の交流会ではビールやワインも提供され、英語に慣れていない私にとっては、ほろ酔いの方がむしろ英会話がスムーズにできたような気がします。

もう一つ強く印象に残ったのは、日本の大学の技術をアメリカに紹介する業務を行っている人です。これまでにある程度、日本の大学からアメリカの企業に技術移転を行った実績もあるということで、山口大学の技術も将来的にアメリカをはじめとして海外へ技術移転が活発にできるように、今回学んだことを生かして取り組みたいと思います。

社会人基礎力育成に向けた取り組みの報告

平成21年度経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」の採択を受け、産学公連携・イノベーション推進機構が工学部および大学教育機構と共同で実施した事業「学部1年で着しCHECK-MANIFESTO-ACTIONループで定着させる継続的な社会人基礎力の育成と評価」が終了しました。この事業では、①学部低学年次学生向けに地元企業7社の協力を頂いて実施した社会人基礎力の育成を目指す講義「アクティブラーニング」、②CHECK-MANIFESTO-ACTIONループにメンタリングを組み合わせた学生の自立的社会人基礎力育成支援の試行、③学生の基礎力育成とキャリア形成支援ツールとしての社会人基礎力電子ポートフォリオシステムの開発、の3項目を実施しました。

①の講義では、6学部33名の学生が産学連携プロジェクト課題「企業インタビューとキャリアマインドの形成を促進するホームページの作成」に挑みました。低学年学生向け講義には珍しく多くの課外活動が要求される「大変な」講義でしたが、緊張でガチガチになった会社取材、時に寝る時間を削りながらチームで共同してホームページを作り上げる作業など、実際に社会人基礎力を発揮しつつ、あるいはその不足を痛感させられながら課題に取り組んだ経験は履修生に多くの財産を与えました。多数の学生から寄せられた「とても大変だったけどこの講義を取って良かった」という感想が

社会人基礎力育成に向けた取り組みの報告 次ページに続きます

それを物語っています。

②の取り組みでは、本部キャンパスと工学部併せて121名の学生に対して「学生による社会人基礎力の定量的自己評価(CHECK)結果を踏まえ、基礎力強化のための具体的行動宣言(MANIFESTO)を作成し、それを実行(ACTION)につなげる」という本学提案の基礎力育成スキームの試行を行いました。メンタリング学生に行動事実の振り返りを行わせると共に自省を促すプロセスは、学生の自己理解を促進するだけでなく具体的で実効性のあるマニフェストを作成するのに極めて有効なこと、メンタリングを経てマニフェストを作ることはそれを実際の行動に移す上で大変効果があることを確認できました。学生の主体的な活動があっはじめて社会人基礎力の育成や勉学意欲・理解度の向上につながるため、これは大きな成果であったと考えています。

産学公連携・イノベーション推進機構では今後も学内関係機関と共同し、③のポートフォリオシステムを含む20年度事業の成果と経験を踏まえて同様の取り組みを継続していきます。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い致します。

★取り組みの概要と学生が作成したホームページは以下のURLにて公開しています。

<http://kisoryoku.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>

新スタッフのご紹介



氏 名:野利本 悠(のりもと ゆう)
専門分野:医薬、バイオ、環境

はじめまして、「野利本 悠」と申します。よろしくお引き回しの程、お願い申し上げます。本年度新しく設置された「ライフサイエンス支援室」で、本年2月1日より活動を開始しております。

自己紹介の欄に、敢えて、専門分野「医薬、バイオ、環境」と書かせて頂きましたが、専門というよりは実務として「医薬、バイオ、環境」に携わってきた、年数、経験が偶々長かったというだけです。一方、世界に眼を向けますと「パンデミック(鳥インフルエンザ感染症)、人口増加、食料供給、エネルギー、環境問題等」人類が解決に向け取り組まねばならない課題が山積しております。又、山口県に措いては二井県知事が「山口発の“医薬医学維新”」を唱えられております。ご存じかもしれませんが、山口の「医薬品生産額」は全国47都道府県の内、9～11位にランクされている上位県です。他方国内の高齢化に伴う「癌、循環器系疾患、成人病等」死亡率上位の疾患に対して、その治療法や改善策の確立について「時間は我々を待ってはくれません。」ここ山口大学においても「これ等ライフサイエンス分野」への早急な貢献が期待されております。「このライフサイエンス分野」において、少しでも山口大学の皆様にお役に立てます様「ライフサイエンス支援室」一同、粉骨精励努力する所存でございます。どんなことでも「お気軽に」ご相談頂ければ幸いです。今後共よろしくお引き回しの程お願い申し上げます。

セミナーのお知らせ

—平成20年度文部科学省産学官連携戦略展開事業—
産学連携型研究開発に関する情報セキュリティ・セミナー
～ライフサイエンスなどの先端研究分野における情報セキュリティの現状と動向～

日 時:平成21年3月17日(火) 15:00～17:05

会 場:山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 先端研究棟3階 セミナー室

参加費:無料

お申し込み・お問い合わせ先:

国立大学法人山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 坪井

住所:〒755-8611 山口県宇部市常盤台2丁目16番1号

電話:0836-85-9961, FAX:0836-85-9962, e-mail:yuic@yamaguchi-u.ac.jp

詳細→ <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/event.php?id=E2009030411331196>

セミナーのご案内 次ページに続きます

【プログラム】

- (1) 15:00- 15:05 開会挨拶
三木 俊克／産学公連携・イノベーション推進機構 機構長
- (2) 15:05 - 16:00 “産学連携に携わる研究者が意識すべき実業界における情報セキュリティの現状と課題”
渡邊 健 氏／(株)データ・キーピング・サービス 顧問
公認内部監査人(CIA)

個人情報保護法、J-SOX法、不正競争防止法といった、実業界における情報管理に関する制度対応のトレンドを実際の事例を交えて紹介。さらに、ライフサイエンスをはじめとする先端研究分野の研究者にも関係が深い、顧客情報、NDA、競業禁止等の知財関連のトピックスについて述べる。

- (3) 16:00 - 17:00 “情報セキュリティの事故事例に見る大学等の研究者への期待”
亀井 将博 氏／監査法人トーマツ エンタープライズリスクサービス
シニアマネジャー
公認内部監査人(CIA)

研究者をはじめとするすべての社会人が遭遇する可能性のある情報セキュリティ事故の具体例を紹介する。事故に至る経緯や状況、背景にある課題や問題点を理解し、ライフサイエンス分野など産学公連携に関係する大学等の研究者に期待される情報管理マインドの基礎的部分について説明する。

- (4) 17:00 - 17:05 閉会挨拶
堀 憲次／産学公連携・イノベーション推進機構 副機構長

ライフサイエンスマネジメントセミナー
～イノベーション創出に向けた戦略と課題～

日 時:平成21年3月18日(水) 10:00～16:10

会 場:山口グランドホテル(山口市小郡黄金町1-1 新山口駅 新幹線口前)

参加費:参加費は無料ですが、事前登録制ですので、下記リンクの申込書の要領でお申し込みください。

<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/pdf/2009021849.pdf>

お申込・お問合せ先:

国立大学法人山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 ライフサイエンス支援室
〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1

TEL:0836-85-3062 FAX:0836-22-2116 E-mail:yuic@yamaguchi-u.ac.jp

詳細→ <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/event.php?id=E2009021809215453>

プログラム:

開会の挨拶 山口大学 学長 丸本 卓哉

セッション1 産学連携の戦略的展開と課題

(1)基調講演

「産学官連携の現状と今後の施策について」

文部科学省 研究振興局 研究環境・産業連携課 専門官 岩田 行剛 氏

(2)「研究現場における知的財産に関するトラブルとその対処法」

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 知的財産部門長 佐田 洋一郎

(3)「山口大学における支援体制強化の実態と展望」

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 副機構長 堀 憲次

セッション2 ライフサイエンス分野のマネジメント強化に向けて

(4)パネルディスカッション

パネリスト

- ・協和発酵キリン株式会社 執行役員/知的財産部長 高柳 昌生 氏
- ・日経バイオテク 編集長 橋本 宗明 氏
- ・東京医科歯科大学 知的財産本部 技術移転センター長 前田 裕子 氏
- ・山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 知的財産部門長 佐田 洋一郎
- ・山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 ライフサイエンス支援室
プロジェクトプロデューサー 野利本 悠

モデレーター

(有)山口TLO執行役員/山口大学副学長 三木 俊克
閉会の挨拶 山口大学 大学院医学系研究科長 西田 輝夫

山口大学客員教授特別講演会のお知らせ

■特別講演会

「新薬創出の問題点と展望」

日 時:2009年3月25日(水) 17:30~

会 場:山口大学常盤キャンパス D講義棟 D23講義室

講 師:奥山 茂客員教授(大正製薬株式会社 医薬開発本部)

参加費:無料

お問い合わせ・申し込み先:山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

TEL:0836-85-9961 FAX:0836-85-9962

E-Mail:yuic@yamaguchi-u.ac.jp

詳細→ <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/event.php?id=E200901201373156>



細胞機能分析装置:フローサイトメーター導入

当機構にベックマンコールター社製フローサイトメーターCell Lab Quanta Scが導入されました。フローサイトメーターは蛍光標識した細胞1つ1つの蛍光強度を定量的に計測し、細胞内のタンパク質量、DNA量、イオン濃度などを知ることができます。細胞周期解析、タンパク質発現量解析、抗原密度解析などライフサイエンス分野の研究に威力を発揮します。本装置は細胞体積も計測できるので目的物質の濃度を計算することもできます。488 nmレーザー光源に加え水銀アークランプも備えていますのでUV励起による蛍光定量も可能です。

使用されたい方は機構までお問い合わせください。



山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

Innovation Center, Yamaguchi University

連絡先:〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1

発行:山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 TEL:0836-85-9961 FAX:0836-85-9962

E-mail:yuic@yamaguchi-u.ac.jp ホームページ:<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>